

からだをめぐる 情報学

2026
9/19 Sat



受講料
無料

対面とオンラインの
ハイブリッド

時間／13:30→16:40 | 講演会 (開場13:00)

閉会后、進学をお考えの方のためのQ&Aタイムを実施いたします。

会場／名古屋大学 東山キャンパス 全学教育棟中棟4階 SIS講義室

オンライン／Zoom使用(ウェビナー) お申込締切 9/16(Wed)

お申込みURL https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_yi-75tN2Qr6c7rdamWFuOA



[会場案内図]



榎堀 優

名古屋大学
大学院情報学研究科
知能システム学専攻
講師

ものの魅力と人間の「感じ方」

私たちは、ものを見たり触れたりしたときに「好き」「良い」と感じます。こうした感性判断は、ものの色・形・質感だけでなく、それらを受け取る身体感覚・経験とも関わっています。しかし、経験は人によって異なるため、同じものを良いと評価しても、感じている「良さ」が同じとは限りません。本講義では、伝統的工芸品の研究事例を通して、ものの特徴と身体、人間の感じ方との関係を分析・可視化・共有する情報科学を紹介します。



藤井 慶輔

名古屋大学
大学院情報学研究科
知能システム学専攻
准教授

身体運動とチームワークの情報学

サッカーなどの集団スポーツでは、一人ひとりが周囲の状況を感じ取り、相手や味方の次の動きを予測しながら自らの動きを選んでいきます。こうした身体どうしの相互作用から、チームワークや戦術と呼ばれる集団の秩序が生まれます。本講義では、映像や位置情報から選手たちの動きを捉え、目には見えにくい連携、空間、意思決定を情報学やAIによって読み解く研究を紹介します。それを通じて、優れたチームプレーとは何かを考えます。



大平 英樹

名古屋大学
大学院情報学研究科
心理・認知科学専攻
教授

からだからの情報がこころを創る

私たちの脳は、過去の経験から世界や自分自身のモデルを作り、将来到来する信号を予測することで、うまく生きることが可能にしています。この意味で脳は、生成AIのようなものです。その働きが主観的に経験されることで、知覚、認知、感情のような「こころ」が創られると考えられています。そうした脳と身体の理論と実証的な研究を紹介し、私たちはどのような存在であるかを考えたいと思います。

